

目次

はしがき

プロローグ 文化と文化をつなぐ……………1

1 異文化認識のためのパフォーマンスに向けて……………1

2 インターカルチュラル・パフォーマンスとは何か……………3

(1) インターカルチュラルリズム (2) ピーター・ブルックの『マハーバーラタ』が批判された理由

(3) コラボレーションが肝心 (4) 本書が目にする要素

(5) キーワード—文化とパフォーマンス (6) 観客をどう論じるのか

3 本書の構成……………17

第1部 日本におけるシェイクスピアのインターカルチュラル・パフォーマンス

第一章 血と白蓮をめぐる異文化衝突 蜷川幸雄演出『タイタス・アンドロニカス』……………25

1 蜷川幸雄演出シェイクスピアの特色……………26

2 蜷川幸雄の異文化との闘争……………27

3 『タイタス・アンドロニカス』日英上演比較……30

(1) 血と白蓮をめぐる異文化衝突 (2) 復讐の連鎖を断ち切る

第二章 「白菊にしばし逡巡らふ缺かな」『オセロー』×夢幻能形式×韓国シャーマニズム……37

1 演劇はコミュニティであるー『オセロー』×夢幻能形式……38

(1) 「白菊にしばし逡巡らふ缺かな」 (2) 宮城聰の汎東アジア的な演劇観

(3) 夢幻能とは (4) 西洋的悲劇を超えて

2 世界は祭りであるー『オセロー』×夢幻能形式×韓国シャーマニズム……45

(1) イ・ユンテクの演劇観ー世界中の演劇の起源は祭りだ (2) イ・ユンテク演出『オセロー』

(3) 日韓合同創作『オセロー』の特色

第三章 何もない空間によみがえるシエイクスピア

リ्यूーとびあ能楽堂シエイクスピア・シリーズ『冬物語』……57

1 リ्यूーとびあ能楽堂シエイクスピア・シリーズ……58

2 リ्यूーとびあ能楽堂シエイクスピア『冬物語』日本公演……60

3 劇場版『冬物語』ジュラ城砦劇場第四回シエイクスピア祭公演……63

4 劇場版『冬物語』凱旋公演……67

第四章 ややしや、やしや、やしや 高橋康也翻案・野村萬斎演出『まちがいの狂言』……71

1 ややしや、やしや……72



2	インタールカルチュラリズムの神髄……	77
3	シェイクスピアの狂言化から未知の領域へ……	78
第五章	日英の観客反応の差異 『NINAGAWA 十二夜』……	87

- | | | |
|---|------------------|----------------|
| 1 | シェイクスピアと歌舞伎の融合…… | 88 |
| 2 | 日英の観客反応の差異…… | 92 |
| | (1) 比較のデータ | (2) 日英の観客反応の比較 |
| | (3) 英国の観客特有の反応 | |

第六章	利賀で世界を生きる 鈴木忠志演出四カ国語版『リア王』……	103
------------	-------------------------------------	------------

- | | | |
|---|-------------------------------|------------------------------|
| 1 | インタールカルチュラリズムのパイオニアとしての鈴木忠志…… | 104 |
| 2 | 鈴木忠志演出『リア王』(一九八四―二〇〇六)の軌跡…… | 107 |
| 3 | 四カ国語版『リア王』(初演二〇〇九年)の特色…… | 110 |
| | (1) シンガポールにおける多言語演劇 | (2) 四カ国語版『リア王』の特色―言葉が解体する地平へ |

『インタールフェイス シェイクスピア上演のフィールドワーク』……	127
----------------------------------	-----

- | | | |
|-----|--|-----|
| (1) | エディンバラ国際フェスティバル・フリンジ(連合王国、二〇〇七年八月)…… | 127 |
| (2) | 『トندگان』―シンガポール・文語タミル語翻訳・翻案『タイタス・アンドロニカス』
(シンガポール共和国、二〇〇七年一月)…… | 134 |
| (3) | SCOT Summer Season 2009(富山県、二〇〇九年八月)…… | 138 |

- (4) 第七回国際シェイクスピア祭（ルーマニア共和国クライオーヴァ、二〇一〇年四月―五月）……………140
- (5) 第六回世界シェイクスピア学会（インド共和国コルカタ、二〇一〇年二月）……………144

第2部 アジアのインターカルチュラル・コラボレーション

第七章 インターカルチュラル・コラボレーションとは

アジア四カ国共同制作作品『モバイル』……………153

- 1 インターカルチュラル・コラボレーションとは……………154
- 2 アジア四カ国共同制作『モバイル』……………160
- 3 シンポジウム「アジアにおけるコラボレーションとネットワークの実践」……………164

第八章 人間がわからないものを鬼にする

『赤鬼』『物語の記憶』『ホテル グランド アジア』……………173

- 1 野田秀樹作・演出『赤鬼』―ロンドン版、タイ版、日本版……………174
- 2 『物語の記憶』―サマルカンド・カーブル・ヒンドウスターン
―南アジア五カ国コラボレーション・マルチメディア演劇作品……………182
- 3 『ホテル グランド アジア』―東アジア七カ国のコラボレーション……………186



第九章 移動する現代（日本） 演劇

- 平田オリザ作『ソウル市民 三部作』 野田秀樹作『The Bee』 三谷幸喜作『笑の大学』……………189
- 1 『ソウル市民 三部作』—日本語版、韓国語版、フランス語版……………190
- 2 『The Bee』—英国版、日本版……………197
- 3 『笑の大学』(The Last Laugh)—日本版、英国版……………203

第十章 韓国文化と日本文化をつなぐ 『焼肉ドラゴン』……………211

- 1 日韓併合一〇〇年Ⅱ日韓新時代の幕開け……………212
- 2 日韓演劇交流—一九九〇年代以降……………215
- 3 日韓合同公演『焼肉ドラゴン』—ビビンバ(ごちやませ) 演劇……………217

エピローグ 差異を味わう……………225

- あとがき……………228
- 文献目録……………239
- 初出一覧……………241
- 索引……………247